はじめに　3

第一章　近代的合理精神の限界　11

すべての先進国で社会の荒廃が進行している。その原因は、近代のあらゆるイデオロギーの根幹を成す「近代的合理精神」が限界にぶつかったことにある。

第二章　「論理」だけでは世界が破綻する　35

「論理を徹底すれば問題が解決できる」という考え方は誤りである。帝国主義でも共産主義でも資本主義でも例外はない。「美しい論理」に内在する四つの欠陥を指摘する。

第三章　自由、平等、民主主義を疑う　65

自由と平等の概念は欧米が作り上げた「フィクション」である。民主主義の前提条件、「成熟した国民」は永遠に存在しない。欧米社会の前提を根底から問う。

第四章 「情緒」と「形」の国、日本 95

自然への感受性、もののあわれ、懐かしさ、惻隠の情……。論理偏重の欧米型文明に代わりうる、「情緒」や「形」を重んじた日本型文明の可能性。

第五章 「武士道精神」の復活を 116

鎌倉武士の「戦いの掟」だった武士道は、日本人の道徳の中核をなす「武士道精神」へと洗練されてきた。新渡戸稲造の『武士道』を繙(ひもと)きながら、その今日性を論じる。

第六章 なぜ「情緒と形」が大事なのか 130

「情緒と形」の文明は、日本に限定すべきものではない。そこには世界に通用する普遍性がある。六つの理由を挙げて説く、「情緒と形」の大切さ。

第七章 国家の品格 158

日本が目指すべきは「普通の国」ではない。他のどことも徹底的に違う「異常な国」だ——。「天才を生む国家」の条件、「品格ある国家」の指標とは。